

時をかける『まちなか』プロジェクト 実施報告書【要約版】

2023年3月

1 実施前史：公共政策フォーラムの学生の視点

2021年10月開催した公共政策フォーラム2021 in 加茂 学生政策コンペは「老若協働参画社会の実現を目指して」をテーマに全国の大学公共政策系学部から10のゼミが参加して政策発表が行われた。内容についてはグーグル・ドライブに論文・プレゼンテーションビデオと掲載されている¹。各ゼミの政策研究を前後年度と比較した特徴として8ゼミまでが「場づくりである」と解いたことがある。加茂市関係者から「現状や実態と異なるのではないか？」というような異議が唱えられてもいない。つまり加茂市における「場づくりの必要性」は多くの学生たちに共通して認識され、またそれを指摘された加茂市関係者にも受け入れられたと言える。地元ではもう少し具体的な行動につなげたい。そこで「場づくり」を事業化するための試行として本プロジェクトを立ち上げることにした。

2 どうして「時をかける」+『まちなか』+「プロジェクト」なのか？

ゼミ論文で全く言及されていなかったのは加茂市の都市基盤、町の構造についてである。加茂市の市街地は加茂川の両岸に広がる東加茂旧市街地と1969年加茂川大水害の対処として加茂川の幅員を2倍に広げるための移転先として開かれた西加茂新市街地である。道路沿いに1キロにも及ぶ長い商店街が続く東側：長生きストリートは空き店舗が目立つなど活力がない。「老若共同参画」とは、人の世代の問題だけでなく、加茂市の「老若」=東西市街地、また商店の「老若」=個店老舗商店と新しいチェーン店、ロードサイド店等の共同参画の必要性をも暗示していた。そこで「いいところを残し」についてはお気に入りの場所などを共有するガリバー地図を行って情報を集めることにし、「一緒に学び、・・・」については歴史に目を向けるべく、「まちなか」で「時をかける」こととした。

3 プロジェクトで行ったこと

(1) ガリバー地図

加茂市中心市街地の縮尺1,500分の1の住宅地図縦横各10枚、約3メートル四方を加茂市駅前施設メリアの3階床に並べ、場所がわかりやすいように目印の写真を立て、付箋紙で来場者が自由にその場所について知っていることを書き込めるようにした。

¹ グーグルドライブ掲載箇所のURL

・論文・ポスター

https://drive.google.com/drive/folders/1z0iAkTBNeYzCge4V1cGJ6sZhNWmM_HhZ?usp=sharing

・発表ビデオ

<https://www.youtube.com/channel/UCeaUJtERMPsiKXi0ZQ5dkfw>

17	田43	田44	田45	田46
22	田49	田50	田51	田52
26	27	田57	田58	田59
28	29	田61	30	31
36	37	38	39	40
41	42	43	44	45
50	51	52	53	54
55	56	57	58	59
65	66	67	68	69
70	71	72	73	74



(左図) 青は加茂川が流れる箇所を含む図 (右写真) 手前左が加茂川最下流部 17 図
赤は J R 信越線が走る箇所を含む図。 左人物の右手が 52 図付近
緑 (52) は加茂川と信越線が交差する図である。

ガリバー地図は 2023 年 2 月 15 日から 28 日までの 14 日間公開、毎日記録写真を撮影し、終了時点で計 106 枚の書き込みがあった。その内容は実に多様であったが、現在の加茂の「魅力」を肯定的にとらえ、場所や商品、自然を自慢したり、誉めるもので埋められた。

(2) インタビュー

事業開始時点でゴールとして考えていきたい中心市街地を歩けるようにすることについて、まちなかウォークアブルや、広く建設行政等について理解できるインタビュービデオを作成し、加茂暁星高校における課外の探究学習「ほしかつ」等において利用した。

<https://www.youtube.com/channel/UCLmyM0e3XLNCYmC3AzzURSA>

(3) ワークショップ

不特定多数の者と生徒とが会うことは、やはり感染の問題から実施できなかったため、少々変形ではあるが、ガリバー地図の会場内に記録誌『加茂川改修の記録』をパネル化して展示した。A1 判のパネルに 1 枚あたり 3～5 頁分を貼り付け、計 18 枚のパネルとした。



(左) メリア 3 階のガリバー地図会場全景 (右) 制作パネルの一部 (左図正面奥部分)

記録誌は 1984 年発行である。掲載されている写真は 1969 年の加茂川大水害の被災状況から 70 年代の工事中のもの、そして 80 年代の完成期であり、記録誌添付の新旧対照となっている地図とともに展示した。年配の来場者からは「そうだ、昔はこうだった」という声があったが、高校生など若者からは「全然知らなかった。こんなに移転したなんて」という声も聞かれた。災害だけではないが、過去を語り継ぐということは難しいことではあるが、まち・地域を「持続可能」とするために、非常に大切であることは言うまでもない。現在の加茂川で、こいのぼりが元気に泳ぐ広々とした河川敷が 1,300 戸近くの立退き協力によってつくられたということ、改めて多くの若者に知ってもらい、かつ、年配者に思い出してもらったこと自体が、加茂市のこれからや建設・土木業への理解に関して大きな効果があったものと思う。現代、広々と改修された加茂川には、水害の記憶を伝え、犠牲者を悼み、協力者に感謝するものが見当たらない。（これでは、技術者として土木の仕事：シビル・エンジニアリング²に就こう、という動機付けがないではないか！）

（４） プロジェクション・マッピング

屋外でプロジェクタから画像をスクリーンではない場所に投影し、投影された場所の照明とその画像とを鑑賞するのがプロジェクション・マッピングのようである。当初、毎年 4 月に行われる加茂市雪椿まつり、8 月ごろの AKARIBA 等で投影を計画していたが、いずれも行事そのものが中止・縮小されて実行することができなかった。2023 年の雪椿まつりは開催される予定で準備が始まっているので、4 月になってしまうが、会場の加茂山公園で投影を実施すべく準備を進めている。

4 考察とこれから

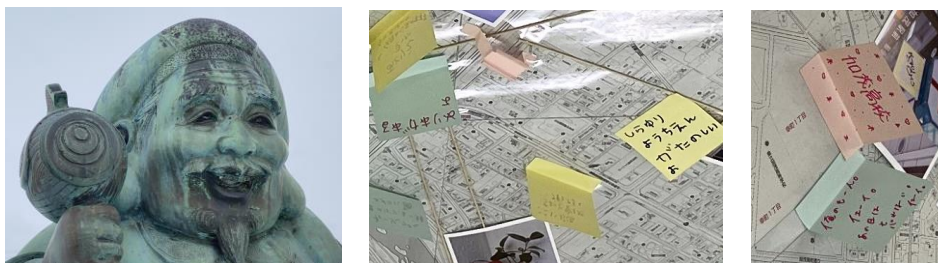
時をかける「まちなか」プロジェクトは 1 年目でデータ収集と検討、2 年目で実際にいくつかの仕掛けを試行することで加茂市の中心市街地の再生を図ろうと計画していたが、事業の開始が著しく遅れたこともあり、2022 年度限りで終了することとなった。2022 年度事業は概ね 3 分の 1 程度しか実施できなかったが、ご支援いただいた一般社団法人 北陸地域づくり協会様をはじめ、インタビュー等でご協力いただいた方々に深く感謝申し上げたい。1 年間の事業から得られたのは加茂市の自治のあり方³についてである。

² 新潟県金子土木部長のビデオ中で使われていた「土木」の英訳。日本語の漢字からは想像がつかないが、エンジニアを目指している瀧澤君には、エンジニアリングはシビル（市民）のためだ、と印象に残った語のようであった。

³ 箕輪允智『経時と堆積の自治 新潟県中越地方の自治体ガバナンス分析』第 4 章「加齢する自治—新潟県加茂市のガバナンス分析」、2019 年、吉田書店が 2019 年までの加茂市小池市長時代を中心に検討している。箕輪氏は加茂市出身であり、小池市政を実体験した上で、他の中越地方の柏崎市等を記述した上で終章で自治体ガバナンスの個性について述べている。それと、小池市政前の加茂川大水害・改修前の自治を比較することが、公共政策フォーラムの学生たちが感じたことへの一つの答えの出し方になるのではと思う。

行政への依存性が強く、住民自治が弱い。住民自身が行うことができることは小さいけれど治水に関してもあり⁴、治水も行政だけすべきことではない。しかし、住民が主体となってまちをつくっていくという考え方は現在の加茂市政に至るまでに非常に弱く感じる。まちづくりについて、「自分ごと」として感じられないのである。ガリバー地図や加茂川改修の記録の展示が現況や過去を振り返ることで、加茂市のこれからのことを住民や関係者自身が考えるきっかけになれば幸いであるし、加茂市の議会や市役所が新潟県や国の省庁にしっかり対話ができ、周辺の市町とともに協調・連携できるようになることができればと思う。

2022 年度の本事業がきっかけであることでもないだろうが、現在議会で審議中の加茂市の 2023 年度予算案には本事業で訴えてきたことに関連する事業も盛り込まれているようである⁵。事業は終了するが、加茂市の民・公双方の動きを引き続き見守っていきたい。



子どもたち、若者たちの楽しいを大切にするまちへ、打ち出の小槌を是非。

⁴ 加茂川のように拡幅して河川改修が不可能な都市河川である横浜市の鶴見川では、流域の総合治水という考え方のもと、大雨が降っても各戸でできるだけ貯水をしようというような取り組みが 1980 年以來行われている。<https://www.ktr.mlit.go.jp/keihin/keihin01093.html> (京浜河川事務所)

加茂川の改修も計画決定から施行に至る過程では、相当程度住民間の話し合いや相互扶助などが行われたようである。

⁵ 加茂市長予算案記者会見 (2023 年 2 月 17 日) 資料 9・11 頁等

https://www.city.kamo.niigata.jp/fs/1/4/6/6/2/9/_/R5tousho_yosan_an_gaiyou_shiryo.pdf